

November 27, 2024

大学院学生各位
To All Graduate Students

2024 年度
基盤医学特論・特徴あるプログラム開講通知
「CIBoG 産官学連携戦略プログラム

CIBoG Industry-Government-Academia Cooperation Program」
Information on Special Lecture TOKURON & TOKUPRO 2024.4-2025.3

題目： 新規モダリティ時代におけるタケダの挑戦 – グローバル R&D 戦略と産学連携に寄せる期待 –
Title： Takeda's challenge in the era of new modalities.
– Expectations for global R&D strategy and industry-academia collaboration –

講師： 梶井 靖 (武田薬品工業株式会社 R & D ジャパンリージョンヘッド)
Teaching Staff : Yasushi KAJII (Takeda Pharmaceutical Co., Ltd)



【講義の説明】

サイエンスの多様化と進歩に伴い、医薬品のモダリティは低分子から各種新規モダリティへと大きく変化した。また従前は製薬企業が自前で創出していた医薬品シーズはアカデミアやスタートアップ由来のものが過半を占めるようになった。さらにシーズインキュベーションから臨床開発、市販後までの製薬産業の R&D を含む Value Chain は、グローバル化と水平分業化が同時進行している。

かつて創薬大国であった日本はこの変化に十分追い付いていない。イノベーションの醸成と実用化を促進する環境整備、すなわち流動性が高く生産的な産学の創薬エコシステムやグローバル投資の流入、国際共同治験参加に後れを取らない臨床治験環境、医療データ利活用環境、イノベーションを評価しかつ持続可能な薬価制度等、産官学を挙げて改善・実現に取り組むべき要件は、昨年来の「創薬力強化」に関連する一連の政府主導産官学協議で洗い出されたが、特に「グローバルに開かれた創薬エコシステム」については様々な施策が始動することが予想される。

本講義においては、製薬産業の R&D の最新の潮流について科学と市場の観点から俯瞰したのち、グローバルファーマの一角としてのタケダ R&D 戦略について概説する。また一連の日本の「創薬力強化」構想に関連する議論を振り返るとともに、製薬企業が産学連携や産官学連携、特にオープンイノベーションを実施する際のアカデミアへの期待について共有する。

日時： 2024/12/19 17時00分より (90分)

Time and Date: December 19 (Thu.), 2024 17:00~ (90 minutes)

場所： 第一講義室 (基礎研究棟 3階)

Room: Lecture room No.1 (Basic research building 3rd floor)

言語： 日本語 (Language: Japanese)

※関係専門分野・講座等の連絡担当者：分子細胞学 和氣 弘明 (内線 2004)
Contact: Molecular Cell Biology, Division of Hiroaki WAKE (Ext. 2004)
(事前の申込みは不要です。No Registration Required.)